

流通とSC・私の視点

2011年11月20日

視点(1479)

I Saw All China (その15) !!

— 中国の新消費構造と80后・90后 —

中国の経済は不安材料はありますが、長期的視点から見ると巨大なマーケットには違いありません。日本と中国の経済成長時代には類似点が見られます。

日本の経済歴・流通歴と中国を比較すると次の通りです（六車流：流通理論）。

		日 本	中 国
第1期	プレモダン消費時代	1945～1950年(5年間)	1949～1980年(30年間)
		戦後から朝鮮戦争特需まで	新国家建設から文化革命終焉まで
第2期	モダン消費時代の夜明け時代	1951～1960年(10年間)	1981～2000年(20年間)
		朝鮮戦争特需から神武・岩戸景気の自力復興の時代	文化革命終焉から開放経済の時代
第3期	モダン消費時代	1961～1990年(30年間)	2001～2030年(30年間)
		所得倍増計画からバブル経済崩壊まで	積極的経済の国際化から中国経済の成熟期まで
第4期	ポストモダン消費時代	1991～2010年(20年間)	2031～2040年(10年間)
		モノ離れによる新たな付加価値創造ニーズの時代	モノ離れによる新たな付加価値創造ニーズの時代
第5期	ニューモダン消費時代	2011～2050年(40年間)	2041年以降～？
		新基軸の消費サイクルの開始	新基軸の消費サイクルの開始

現在の中国の所得レベル（ここでは1人当たりGDPで表現）を日本・アメリカと比較すると次の通りです。

	中 国			日 本	アメリカ
	全体	沿岸部	北京・上海		
1人当たりGDP	4,412ドル	10,000～12,000ドル	15,000～20,000ドル	42,831ドル	47,284ドル

また、購買力平価（同じ生活をする時に必要となる消費支出で比較する指数）で見ると、中国の1人当たりGDPは7,519ドル（為替レートでは4,412ドル）、沿岸部では15,000～20,000ドルに相当します。また、中国は所得格差が大きいことと、見えない所得があることから、富裕層の割合は相当高いとされています。

このように、中国の経済の量的な発展のみならず、質的な面からも新しい消費構造が出現しています。それは、モダン消費と新人類の消費の登場です。日中のモダン消費と新人類の消費を比較すると次の通りです。

		日 本	中 国
モダン消費のスタート		1961年	2001年
モダン消費を牽引した新人類		団塊世代(昭和ニューファミリー世代) 1946～1954年生まれ	80后・90后(経済解放後世代) 1980～1999年生まれ
新消費人類のプロセス	社会進出時期 (ここでは20歳とする)	1966～1975年	2000～2009年
	家族形成時期 (ここでは30歳とする)	1976～1985年	2010～2019年
モダン消費の牽引		日本では、団塊世代の社会進出と家族形成がモダン消費の牽引となった	中国では、80后・90後の社会進出と家族形成が今後のモダン消費の牽引となる

1つの国がモダン消費時代（モノを買い、モノを消費し、モノを使用し、モノを所有することの連続性が喜びと幸福感を味わう生活向上型消費の時代）になるためには「所得レベルがGDPで1万ドル以上」となることと「全く新しい価値観を持った新消費人類の出現」の2つの要因が必要です。

日本では1946～1954年生まれ（10年間・前後10年を合わせると30年間の昭和ニューファミリー層）の団塊世代が「戦後の新しい教育」「新しい家族意識」「新しい生活様式」を持って、流通社会に消費という形で進出し、モダン消費社会を築きました。中国では1980年代～1990年代生まれ（20年間・前後5年を合わせると30年間のニューファミリー層）が「経済開放後・文革後の新しい教育」「新しい家族意識」「新しい生活様式」が2011年以降出現（80后＝バーリンハウの家族形成、90后＝ジョウリンハウの社会進出）により、モダン消費が完成度の高いレベルで進化します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之